

編集者のことば

本号は、本研究所の共同研究Ⅲ「都市型地震災害の実態と復興に関する総合的研究」の一環としてまとめられた11編の論文を中心に、「都市直下の地震災害と防災対策」と題する特集号を組み、併せて、これに関する2つのシンポジウムの記録を掲載することとした。

栗山利男他「鉄筋コンクリート造建築物の耐震性能の分布に関する調査研究」は、全国の耐震診断データを収集し鉄筋コンクリート造建築物の構造耐震指標を体系的に整理分析して、建物の耐震性能が建物の建設年代、階数、建物用途により異なる分布となることを示すとともに、現行の耐震性能分布の見直しの必要性を明らかにした。天国邦博他「都道府県を対象とした自然災害統計データベースの構築」は、長期にわたるわが国の災害による被害統計資料を整理分析し、被害の量と地域特性の関係及び多変量解析による被害量の分析を行った。佐土原聡他「阪神・淡路大震災における倒壊建物からの人命救助に関する調査研究」は、地震のため倒壊建物に閉じ込められた人を探査・救助するための機器が備えるべき条件について、救助にあたった消防員や住民及び救助隊員にアンケート調査等を行い考察したものである。熊谷良雄「地震被害想定と地域防災計画」は、阪神・淡路大震災以前と以降の都道府県地域防災計画を比較分析しその課題を提示するとともに、地震被害想定を含めてその後の動向を明らかにした。高見沢邦郎他「震災被災地における住宅市街地再建への専門家による支援活動」は、関係者へのインタビューなどにより被災地における都市・住宅の専門家による住宅・まちづくりへの支援活動に焦点をあて実態調査を行い、専門家による計画支援の全体像を整理してその意義と今後への知見を明らかにした。

星旦二他「保健医療計画における災害対策記載状況」は、都道府県保健医療計画の記載内容の中から防災計画と救急医療体制の項目を取り上げ、都道府県・二次医療圏別にその記載事項を記述疫学的に分析して今後の課題を明らかにした。若林佳史「自然災害にあった人への心理的・精神保健的接近」は、自然災害が被災者に与える精神医学的影響に関する既存調査研究をレビューし、その知見を明らかにするとともに、被災者の精神的健康のためには物理的環境や身体的問題の解決の大切さなどの所見を提示した。塩野計司他「ライフラインの震災対策による短期的避難需要の低減効果」は、被災都市宝塚市での住民アンケート調査をもとにその生活支障の強さを計量評価し、避難世帯の発生率を算定して両者の関係を示す実験式をつくり、これによりライフラインの停止日数の長短が避難世帯の発生率に及ぼす影響を避難需要の低減との関連において考察した。萩原清子「地震災害と環境」は、都市環境の価値を安心・安全・快適・ゆとりの観点から総合的に捉え、防災・減災対策を阪神・淡路大震災を例に検討するための考え方を示すとともに、地震災害時というリスク下における意思決定プロセスの検討を試みた。中林一樹「都市の地震災害に対する事前復興計画の考察」は、東京都の震災復興対策を事例に事前の都市復興計画に関し概念整理を行い、東京都の都市復興マニュアルにこめられた理念と課題を考察した。吉井博明「地震長期確率評価情報の受容と意義」は、地震長期確率評価情報が公表された東海地震と神縄・国府津一松田断層の地震をとりあげ、これらの地震被害を被る可能性が高い静岡・小田原両市の一般市民を対象にしたアンケート調査にもとづき、長期確率評価の認知と受け止め方、確率評価情報と定性的予知情報との対応関係などを明らかにした。

次に、公開研究会として実施した二つのシンポジウム記録である。一つは、「直下地震の被災のメカニズムと緊急対応」と題するもので、1998年10月に本学で催された学内外の8名の研究者の講演と討論をとりまとめたものである。もう一つは、「震災復興計画の策定プロセスと復興まちづくりの初動対応」と題するもので、同年11月に本学で催された学内外7名の講演と討論の概要である。